

## 「ダビデの幕屋を建て直す」使徒言行録15章12～21節

細井 茂徳

エルサレムで開かれた教会会議を学んでいます。今回は激しい議論の後、使徒ペトロが発言をしたところまでを学びました。今回は、ペトロの発言後の会議とその決着とを12～21節から学びます。

ペトロに続いてバルナバとパウロが発言し、その後、この会議の議長と目されるヤコブが話しました。とても律法に忠実な人でしたから、きっと割礼派の人々の後ろ盾になるかと思いましたが、ヤコブは全面的にペトロを支持し、尚且つ新たな視点をも加えました。旧約聖書を引用し、アモス書9章からの言葉を根拠として、異邦人の救いは旧約時代からの約束であったことを示したのです。後の日に、メシアによってもたらされるダビデ王国の復興を、終末における神の国の成就の幻と重ね合わせて語ったのです。そればかりでなく、「**私の名で呼ばれるすべての異邦人が 主を求めるようになる**」。ユダヤ人だけでなく「**すべての異邦人**」を包括する御国を建て、まっすぐに建て。これこそが、「**ダビデの幕屋を建て直す**」こと、ダビデの末裔である主イエス・キリストによって実現した救いであり、主が遣わされた使命であり、神がなさろうとしている本来の神の国であると、そう分かったとヤコブは発言したのです。そして、「だから異邦人キリスト者に、割礼やユダヤ教にかかわる律法を課して悩ませてはならない」と結論づけました。但し、旧約律法にある4つの禁止事項(20節)については、各地の教会へ書き送るべきだと提案しました。ユダヤ人キリスト者がつまずいたりしないように、多くの人が救われることが神とキリストの御心であるとの大前提のもとで出てきた配慮であったでしょう。

私たちにとって「**ダビデの幕屋を建て直す**」とは、どういうことでしょうか。それは、日々の生活の中で、ダビデの内にあった心を持ち、霊とまことをもってイエス・キリストの十字架の御業に答えて、互いに配慮しつつ礼拝者として生きていくことなのです。